

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2277102394		
法人名	医療法人社団 溥姚会		
事業所名	グループホーム ひかる		
所在地	静岡県浜松市南区御給町263番地		
自己評価作成日	平成28年2月5日	評価結果市町村受理日	平成28年4月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/22/index.php?action kouhyou detail 2014 022 kani=true&JigyosyoCd=2277102394-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成28年 3月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療法人が経営しており、24時間医師との連携が図れるため入居者の家族より安心して頂いています。また従業員も安心して働く事が出来ています。季節ごとに飾り物や花を変えたり、入居者と一緒に季節にちなんだ催しの飾り物を作ったり、行事に出掛けたりして、常に四季を感じてもらえる様な支援を心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設当時の事業所の理念である「思いやりの心・ぬくもりの心・支えあう心」が浸透し、利用者と職員の関係だけでなく職員同士お互い相手の気持ちを組み合わせ助け合って介護に取り組んでいる。職場の人間関係が良く産休明けの人、体調を崩して一旦退職した人も又職場に戻ってきていて、職員は全員有資格者である。医療法人が母体であり、定期的に往診があり24時間オンコールで対応が可能で利用者・職員は安心である。重度化や終末期に入っても病院と連携し、本人・家族の希望に添えるようになっている。管理者は利用者に施設内から出て気分転換をして欲しいと天候を見て、外気浴や散歩に行くようにし、同法人のデイスービスの車を使い車椅子の人も買い物やドライブに出かけられるよう支援をしている。近くの喫茶店に数名ずつ交代で外食に行くことがある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入社時に事業所の理念を伝えている。また月1回の会議の場で確認して共有している。	開設時法人の医師が作った「思いやりの心・ぬくもりの心・支えあう心」の理念を継続しており、玄関や居間に掲示してある。管理者は職員が利用者の支援方法で悩み相談を受けた時、相手の気持ちを考え理念に立ち返り対応するよう話している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しているが、日常的な活動には参加出来ていない。周辺の方とは散歩時や夏祭りの際などに、多く会話をもつ様に心掛けています。	地域の踊りの会ボランティアが定期的に訪れ、地元の夏祭りに利用者と職員が参加している。中学校の職場体験の受け入れを行っている。自治会に加入をしているが交流は少ない。管理者は4月の新年度役員に挨拶に行く予定である。	運営推進会議に毎回出席している民生委員と連携し地域との関係作りに発展していくような取り組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方から相談を受けた際には話を聞いたり、様々な介護サービスについての説明を行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中で出た意見を、サービスの向上に努めています。	行政や包括に案内は出しているが、参加がなく、毎回民生委員と家族が出席しての会議が2ヶ月に1度開催されている。熱中症・食中毒についてや職員が現場で感じる困難や喜びなどを話すなど毎回テーマを変えている。参加者からの意見は検討し反映するようにしている。	呼びかけの工夫をし、行政や包括・自治会や地域住民への参加を促し、地域との交流や協力体制にも繋がるような会議になるよう期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	空室状況の提供や入居に関しての相談に対応して、事業所の状況を伝えています。	市長寿保険課へ事故報告を出しに行く時窓口で話をするようにしている。市・包括センターへ空き室状況の提供をし、困難者の受け入れ要請があると担当者で連絡を取り合い対応している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員には常に拘束を行わない介護の実践を心掛ける様に伝えている。入居者には、入居時の契約の際に説明をしています。	職員は利用者全員を把握していて、ヒヤリハット事例についてはミニカンファで又月1回のミーティングで話し合い事故に繋がらないよう取り組んでいる。利用者の表情を見て外に出たいと解るとユニット間で流動的に連絡を取り合い一緒に出たり、話を聞くなど対応している。	

静岡県(グループホームひかる 1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	他施設でのケース等を参考にして、職員間での行動、言葉使いに注意しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	月に一度の勉強会で学ぶ機会を設けています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な時間をとって説明を行い理解を得てから契約の署名をもらっています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者からの要望に関しては、必要に応じて会議の場で話し合いを持ちます。家族の方とは、面会の際や行事の時等に意見を聞く様になっています。	職員は運営推進会議や面会時に家族からの意見・要望を聞き、記録に残し共有している。家族の要望から職員の顔写真と名前を玄関に掲示したり、葉の内容を知りたいと聞かれ毎月の請求書に同封するなど反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の会議の場で意見を聞き、要望をまとめて理事長に伝えるケースもあります。	管理者と職員は言いやすい関係で、日常的に気付いたことの意味やケアの提案をしている。シフト希望は職員同士で話し合ったり、調整し叶えられている。職員からの希望で法人へ稟議書をあげ、車椅子タイプのシャワーチェアの購入をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員が向上心を持って働ける様に職場環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験年数やレベルに応じて、研修を受ける機会を設けて、質の向上に努めている。		

静岡県(グループホームひかる 1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部での研修や、他施設での行事に参加する事で交流する機会を作っている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居直後は不安で落ち着かないケースもあるので、本人と話す時間を多く持ち、家族も含めて安心して生活出来る環境づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の相談時に、ゆっくりと話を聞いている。その中で、今後の方向性を話し合い信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族と話をすることで、必要な支援を見極め対応する様にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホーム内では、共に生活する事を常に考えている。出来る事をやってもらい、出来ない事の見極めをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居後も外出や面会、行事への参加を促し、また面会時に最近の様子を伝える様にして、常に共に支援する関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時に馴染みの品を持ってきてもらう様をお願いしている。また本人の希望を聞いて、家族に外出をお願いする事もある。	元同僚や友人・知人の訪問があるとお茶を出し、職員も一緒に関わることで又来てもらえるよう支援をしている。以前から行っていた店に職員と一緒に買い物に行ったり、家族と馴染みの食堂やお墓参りに行っている。	

静岡県(グループホームひかる 1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、必要に応じて職員が中に入り話を聞き、孤立する様な事がない様な支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの終了後も、知人の入居の相談を受けたり、必要に応じて、他施設への様子伺いに出掛ける様にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランの作成時に、本人の希望を確認している。	入居時に家族から聞いている生活歴や嗜好などを基に生活の中で知りえたことを記録し、申し送りで共有して本人の思いを把握するようにしている。入浴時や1対1になる居室で「お茶碗が大きすぎる」など聞けることがある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際に、本人、家族、ケアマネ等から過去の生活歴や他サービスでの様子を確認している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子は日報に記録し、心身の状態の変化を確認している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアのあり方については、本人や家族の希望、現状を考えて、本人がより良く暮らしていくための介護計画を作成している。	モニタリングは3ヶ月に1度、半年ごとに見直しをしている。更新時や状態が変化した時本人・家族の意見を聞き、管理者と職員で検討し総合的援助方針を決めて計画書を作成している。家族には来所時説明し確認をもらって、職員は変更内容をカンファで確認し共有している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践結果は、日報に記録して職員間で情報の共有を図っている。		

静岡県(グループホームひかる 1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の身体状況や、家族の状況を常に考えて、グループホーム以外のサービスを検討する事もあります。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	個人の暮らしを支えている地域資源の把握に努め、生活を楽んでもらえる様に支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医の確認をして、適切な医療を受けられる様に支援している。	医療法人が母体であり、月2回往診があり、緊急時は24時間オンコールで医師の対応がある。歯科の往診も月2回ある。他科受診や精神科に受診している人は家族が対応して、結果を聞いている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職、看護職が一つのチームとして連携し、情報を共有出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	主治医を通じて、総合病院への連携がとれている。入院時には、面会に行く際に病院の関係者と情報の交換をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、状態の変化があった時に医師を含めて話し合いを持ち、その都度、ご家族の希望を確認し、それに沿った支援に努めている。	入居時に本人・家族の意向を聞いて、終末期になった時に延命措置についてや点滴での対応などの説明をし同意書をもっている。状態が悪くなった時、家族と話し合い医師・看護師と連携し職員が支援している。管理者は看取った後担当職員の心のケアをしているが職員の力量はついている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを利用し、急変時の対応方法の確認をしている。		

静岡県(グループホームひかる 1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中、夜間での避難訓練の実施や、点検業者や消防署と連携しての通報訓練、消火器等の設備の取り扱いを職員に行っている。	地震・火災の訓練を日中・夜間を想定して行っている。火元を変え全員が駐車場までの時間を計測し、津波の時は2階に集めるなど訓練をしている。年1回は消防署が立会い実施している。備蓄は食糧・水・調味料・備品を1ヶ月分用意し逐次使用し追加している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩に対して、失礼のない声かけを心掛けている。居室やトイレへの入室の際には、ノックする事を忘れない様にしている。	接遇のマニュアルがあり、職員は誇りやプライバシーを損ねない対応をしている。日々の生活の中で呼ばれたい名前呼び、アットホームな雰囲気や方言を入れるなどし距離感のない暖かな対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日中の職員との会話で、希望を言ってもらい、それに沿った援助を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間以外は、特に決まりを設けていない。季節や天候に応じて、個人のペースに合わせた支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の着たい服装をしてもらっている。外出時にはお化粧をしたり、帽子をかぶったりと個人の好みに合わせた支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方には準備、片付けを一緒に行ってもらい、食事時も、介助は最低限にして自分で食べる事の出来る環境作りに努めている。	朝・夕食は献立付きで食材が届き職員が手作りしているが利用者の希望を聞いてメニューを変え提供することがある。昼食は調理済みの惣菜が配達され個々に合わせた配膳をし、職員と一緒に同じ物を食べている。近くの喫茶店にハンバーグなど食べに行くことがある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の状態や体重の増減を確認し、十分な食事、水分量が確保出来る様に食事形態や自助具の活用等の工夫をしている。		

静岡県(グループホームひかる 1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	うがいや義歯の洗浄、スポンジを用いてのケア等、個人の能力に応じたケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介助が必要な方には、パターンを確認して日中はトイレでの排泄援助を心掛けている。また普段はオムツでも、排便はトイレで促す等、入居者が不快にならない様な援助を常に心掛けている。	重度で日中1人・夜間3名とオムツ使用の人もいるが排泄パターンを知り、適宜誘導することで紙パンツにパッドの人が布パンツにパッドになったり、パッドの大きさを小さくしたりなど改善されてきている。失敗した時はさり気なく浴室に誘導するようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤を使用するだけでなく、水分を促したり、ヨーグルトを食べたり、トイレ誘導時の腹部マッサージ等、様々な方法で予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日や時間の設定は行っていない。基本は隔日に入浴しているが、毎日の希望がある時には出来る限りの支援をしている。	午後の時間帯に見守りや2人介助で1日3～4名が入浴している。拒む人に「明日天気が悪くなりそうだから」など声掛けするとスムーズにいくこともあるが拒否が強い人には無理強いせず時間や人を代えて声掛けすることで週3回は入浴するように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間はエアコンや加湿器で室温の調節をしたり、掛け物の調整をしている。日中も、疲れがあれば、休息の時間をとるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を用いて、用途の理解に努めたり、看護師より服薬時の注意事項を説明する様にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	環境整備から洗濯、調理等、それぞれの能力を発揮できる役割をお願いしている。また外出や買い物の機会を設けて気分転換をしている。		

静岡県(グループホームひかる 1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物だけでなく、地域の公園等に遊びに行く機会を設けている。また、本人からの希望には家族の方にも協力をしてもらい、出かけられる援助をしている。	管理者は利用者に施設内から出て気分転換をして欲しいと天候をみて外に出て玄関前の長椅子で外気浴をしたり、施設の周りを散歩するようにしている。母体の医院に毎日車でゴミ捨てと一緒に往ったり、買い物やレクリエーションで花見等に出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	能力に応じて、個人で財布を管理している方もいて、買い物の際に支払いをしてもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望がある際には、事務所の電話を使用してもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節によって、花や飾り物に変化をつけて、入居者に四季を感じてもらえる様な工夫をしている。	トイレは解りやすく表示しており、矢印まであって混乱を招くことが少ない。戸の開閉時の音や臭いがないよう気をつけている。玄関・ホール・テーブルに生花が飾られ四季を感じることが出来る。利用者の状態を見て席を決め不穏にならないよう支援している。洗濯物を畳んだり、横になれる畳のスペースがある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング、居室の他に2階に少人数で会話出来るスペースや、玄関先に長いすを設置して、プランターの花を觀賞しながらお仲間さんで過ごす事の出来る環境づくりの工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に、馴染みの物を持ってきて頂く様をお願いしている。多くの方が、部屋に使い慣れた物を置いている。	居室の入り口に顔写真・名前・居室担当者の名前が記された札がある。全室南向きで明るく、エアコンと照明器具のみが備え付けで使い慣れた家具調度品等が持ち込まれその人らしい居室になっている。衣替えは家族が対応したり、担当職員がしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個人の残存能力を活かして、出来る事を探して、自立した生活を送れるように工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2277102394		
法人名	医療法人社団 溥姚会		
事業所名	グループホーム ひかる		
所在地	静岡県浜松市南区御給町263番地		
自己評価作成日	平成28年2月5日	評価結果市町村受理日	平成28年4月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kaiyokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=2277102394-00&PrefCd=22&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成28年 3月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療法人が経営しており、24時間医師との連携が図れるため入居者の家族より安心して頂いています。また従業員も安心して働く事が出来ています。季節ごとに飾り物や花を変えたり、入居者と一緒に季節にちなんだ催しの飾り物を作ったり、行事に出掛けたりして、常に四季を感じてもらえる様な支援を心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入社時に事業所の理念を伝えている。また月1回の会議の場で確認して共有している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会に加入しているが、日常的な活動には参加出来ていない。周辺の方とは散歩時や夏祭りの際などに、多く会話をもつ様に心掛けています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方から相談を受けた際には話を聞いたり、様々な介護サービスについての説明を行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中で出た意見を、サービスの向上に努めています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	空室状況の提供や入居に関しての相談に対応して、事業所の状況を伝えています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員には常に拘束を行わない介護の実践を心掛ける様に伝えている。入居者には、入居時の契約の際に説明をしています。		

静岡県(グループホームひかる 2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	他施設でのケース等を参考にして、職員間での行動、言葉使いに注意しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	月に一度の勉強会で学ぶ機会を設けています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な時間をとって説明を行い理解を得てから契約の署名をもらっています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者からの要望に関しては、必要に応じて会議の場で話し合いを持ちます。家族の方とは、面会の際や行事の時等に意見を聞く様にしています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の会議の場で意見を聞き、要望をまとめて理事長に伝えるケースもあります。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員が向上心を持って働ける様に職場環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験年数やレベルに応じて、研修を受ける機会を設けて、質の向上に努めている。		

静岡県(グループホームひかる 2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部での研修や、他施設での行事に参加する事で交流する機会を作っている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居直後は不安で落ち着かないケースもあるので、本人と話す時間を多く持ち、家族も含めて安心して生活出来る環境づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の相談時に、ゆっくりと話を聞いている。その中で、今後の方向性を話し合い信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族と話をする中で、必要な支援を見極め対応する様にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホーム内では、共に生活する事を常に考えている。出来る事をやってもらい、出来ない事の見極めをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居後も外出や面会、行事への参加を促し、また面会時に最近の様子を伝える様にして、常に共に支援する関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時に馴染みの品を持ってきてもらう様にお願いしている。また本人の希望を聞いて、家族に外出をお願いする事もある。		

静岡県(グループホームひかる 2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、必要に応じて職員が中に入り話を聞き、孤立する様な事がない様な支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの終了後も、知人の入居の相談を受けたり、必要に応じて、他施設への様子伺いに出掛ける様にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランの作成時に、本人の希望を確認している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際に、本人、家族、ケアマネ等から過去の生活歴や他サービスでの様子を確認している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子は日報に記録し、心身の状態の変化を確認している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアのあり方については、本人や家族の希望、現状を考えて、本人がより良く暮らしていくための介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践結果は、日報に記録して職員間で情報の共有を図っている。		

静岡県(グループホームひかる 2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の身体状況や、家族の状況を常に考えて、グループホーム以外のサービスを検討する事もあります。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	個人の暮らしを支えている地域資源の把握に努め、生活を楽んでもらえる様に支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医の確認をして、適切な医療を受けられる様に支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職、看護職が一つのチームとして連携し、情報を共有出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	主治医を通じて、総合病院への連携がとれている。入院時には、面会に行く際に病院の関係者と情報の交換をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、状態の変化があった時に医師を含めて話し合いを持ち、その都度、ご家族の希望を確認し、それに沿った支援に努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを利用し、急変時の対応方法の確認をしている。		

静岡県(グループホームひかる 2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中、夜間での避難訓練の実施や、点検業者や消防署と連携しての通報訓練、消火器等の設備の取り扱いを職員に行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩に対して、失礼のない声かけを心掛けている。居室やトイレへの入室の際には、ノックする事を忘れない様にしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日中の職員との会話で、希望を言ってもらい、それに沿った援助を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間以外は、特に決まりを設けていない。季節や天候に応じて、個人のペースに合わせた支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の着たい服装をしてもらっている。外出時にはお化粧をしたり、帽子をかぶったりと個人の好みに合わせた支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方には準備、片付けを一緒に行ってもらおう。食事時も、介助は最低限にして自分で食べる事の出来る環境作りに努めている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の状態や体重の増減を確認し、十分な食事、水分量が確保出来る様に食事形態や自助具の活用等の工夫をしている。		

静岡県(グループホームひかる 2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	うがいや義歯の洗浄、スポンジを用いてのケア等、個人の能力に応じたケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介助が必要な方には、パターンを確認して日中はトイレでの排泄援助を心掛けている。また普段はオムツでも、排便はトイレで促す等、入居者が不快にならない様な援助を常に心掛けている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤を使用するだけでなく、水分を促したり、ヨーグルトを食べたり、トイレ誘導時の腹部マッサージ等、様々な方法で予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日や時間の設定は行っていない。基本は隔日に入浴しているが、毎日の希望がある時には出来る限りの支援をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間はエアコンや加湿器で室温の調節をしたり、掛け物の調整をしている。日中も、疲れがあれば、休息の時間をとるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を用いて、用途の理解に努めたり、看護師より服薬時の注意事項を説明する様にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	環境整備から洗濯、調理等、それぞれの能力を発揮できる役割をお願いしている。また外出や買い物の機会を設けて気分転換をしている。		

静岡県(グループホームひかる 2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物だけでなく、地域の公園等へ遊びに行く機会を設けている。また、本人からの希望には家族の方にも協力をしてもらい、出かけられる援助をしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	能力に応じて、個人で財布を管理している方もいて、買い物の際に支払いをしてもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望がある際には、事務所の電話を使用してもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節によって、花や飾り物に変化をつけて、入居者に四季を感じてもらえる様な工夫をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング、居室の他に2階に少人数で会話出来るスペースや、玄関先に長いすを設置して、プランターの花を観賞しながらお仲間さんで過ごす事の出来る環境づくりの工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に、馴染みの物を持ってきて頂く様をお願いしている。多くの方が、部屋に使い慣れた物を置いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個人の残存能力を活かして、出来る事を探して、自立した生活を送れるように工夫している。		